

●神奈川区国際交流団体KANAKによるライブパフォーマンス

横浜市神奈川区に住む外国人のために日本語教室を開いたり、交流会を行ったりしているKANAK。所属するフィリピンやペルーの方々がクリスマスソングやフィリピンソングを披露して下さいました。皆さんの素晴らしい歌声に感動しました。私は皆さんとの親交を深めるために、学科祭の前に横浜の街を歩く歴史散歩にも参加させてもらい、英語や日本語での会話を楽しみました。

今年の学科祭は全体的に完成度が高いものが創れたのではないかと思います。準備は細かな作業の積み重ねで、大変なこともありましたが、学年の枠を越えて、1つのものを創り上げることは私にとって大変貴重なことでした。

少し残念だったことは。当日はあいにくのお天気だったこと、私たち自身広報活動に手が回らない部分があり、あまり多くの方に来ていただけなかったことです。来年はもっと良いものを創って、もっともっと多くの方に楽しんでいただきたいと思います。

国際文化交流学科は、神奈川大学の中でも歴史が浅く人数も少ない学科です。しかし、幅広い知

識を持ち、学生に歩み寄って下さるプロフェッ

ショナルな教授が多く、また学生1人ひとりが国際感覚を持ち、また日本の良さを海外へ広めたいと思いい日々勉強をしています。語学が堪能な学生も多く、これからのインターナショナルな社会には必要な人材となる人も多いはずです。現に、この学科を卒業した先輩方は国際化が進む社会の中で立派に活躍されています。私は我が国際文化交流学科を他の学科に負けない、神奈川大学の「顔」と呼んでいただけるような学科にしていきたいと思っています。私が卒業するまでにすこしでも国際文化交流学科の発展に貢献していきたいです。この学科祭も、その1つであるとも考えています。

最後になりましたが、今回の国際文化交流学科の文化ウィークに携わって下さった全ての方々、スタッフの仲間たち、そして今回取材をして取り上げて下さったことに感謝致します。ありがとうございました。

# 2012 国際文化交流学科文化ウィーク 体験談

外国語学部  
国際文化交流学科2年

中村 亮太

僕は国際文化交流学科に入学したところから学科の文化ウィーク委員をやらせていただいています。去年は1番下の学年ということで重要なことはすべて先輩たちにお任せしていました。ですが今年は来年のことなどを考え、重要なことも先輩たちと共にやらせていただきました。今年の経験を生かし、来年の文化ウィーク企画をよりよいものに使っています。

今年の企画は去年とは異なり、イベントを2つに分けて別々の日に実行いたしました。最初のイベントは10月27日に開催された「Festival de Lingvo」言語のお祭り」でした。このイベントは国際文化交流学科の学生たちが当学科の特徴でもある数々の地域言語を活かして発表を行うイベントで、例えるなら英語のスピーチコンテストのようなものをいろいろな地域言語、いろいろな

発表方法でやるイベントです。もちろんただで発表をしていただいたわけではありません。当日来ていただいた先生方によかったと思うグループを選んでいただき、上位3つのグループに図書券を差し上げました。それに加え、参加されたすべての発表者に参加賞として図書券を差し上げました。

もう1つのイベントは11月17日に行われた「Cross Cultural Cafe」です。このイベントは去年にやったものをパワーアップしたようなイベントで飲み物やお菓子を提供して、そのほかファッションショーや民族音楽などいろいろな文化に触れていただく企画です。

カフェも去年と比べるといいものになりましたが、今年の見所はやはり初めて行われたファッションショーでした。これは学生にモデルになっ

てもらい、民族衣装でランウェイを歩いていただくファッションショーでした。例えるなら「東京ガールズコレクション」ですね、まさに「国文(国際文化交流学科)学生コレクション」でした。

この日の最後は神奈川区国際交流団体KANAKによるパフォーマンスでした。イベントの最後にふさわしい素晴らしい歌声とフィリピン人やペルー人の方々の暖かさが伝わってきました。

楽しいイベントではありましたが、準備には苦労した面もありました。やはり大変だったのが情報をうまく委員同士で共有できたかったことだと思います。最近スマートフォンアプリで便利なものがありますがみんなが持っているわけではないですし、ほかの方法を使ってメールを送っても迷惑メールフィルターで受信できないな

はじめに

2011年3月11日、私たちは忘れられない災害を経験した。津波によって、日本のグラウンドゼロといっても過言ではないほど変わり果てた被災地の情景を目の当たりにした。地震から日が経つにつれて、少しずつ日常を取り戻していくなか、今でも私たちにとって深刻な問題がある。それは、「放射線」だ。

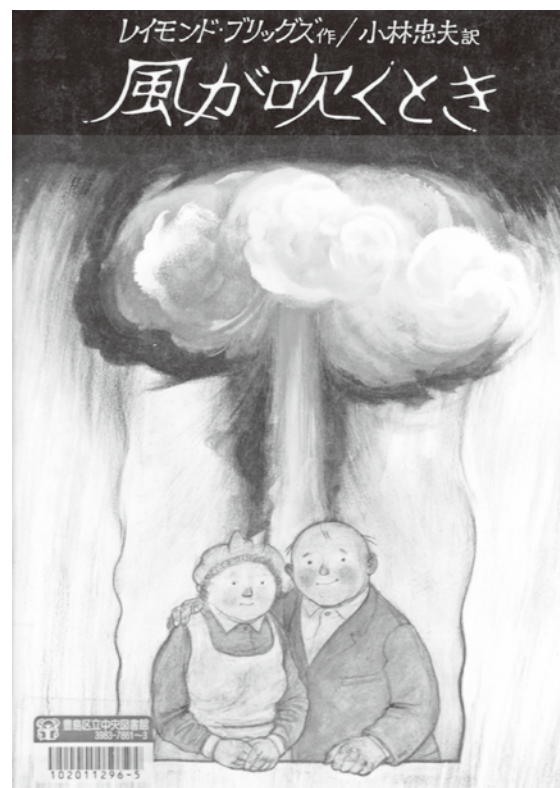
原子力発電所の爆発があつてから、私たちは真剣に向き合い始めたが、被災する以前に、しかも日本ではなくイギリスという異国の地で、「原子力」に警鐘を鳴らしていた人物がいたことをご存知だろうか。

その人物の名前は、レイモンド・ブリッグス。誰もがどこかで見たことがあるキャラクター、『スノーマン』の作者である。他にも、『さむが

やのサンタ』、『サンタの楽しい夏休み』など、親しみ易い児童絵本を作ってきた作家のレイモンドが放射能汚染の恐怖を絵本に表現した作品が、この文章のタイトルでもある『風が吹くとき』だ。

あらすじ

イギリスの田舎に暮らすジムとヒルダ夫妻は、定年を迎え、年金生活を送っている。平和な毎日、ある日ラジオから聞こえてきた「当局ノ発表ニヨレバ、ワガ国ニ対シテ敵ノみさいる攻撃ガ開始サレマシタ」という臨時ニュースによって、崩れ始める。そう、この作



品における「原子力」とは日本が唯一被爆を経験した「原爆」のことなのである。

夫婦はミサイル発射の前、政府と州議会がそれぞれ作成した戦時下を生き残るためのパンフ

# 風が吹くとき 絵本からの警告

外国語学部  
英語英文学科4年

長瀬 絢香

どありました。週1回の昼会議を設けていたのでそこで共有はできましたが、もっと早くみんなに情報が回るように来年は工夫したいと思っています。

僕は今年の国際文化交流学科の文化ウィークは大成功したと思います。理由はいろいろな学生と先生方に参加していただいたからです。10月27日の「Festival de Lingyo（言語のお祭り）」は学生参加型のイベントでしたので参加した学生さんに加え、参加された方々の友人、家族も観に来てくださいました。それに加え、上位3つのチームを決めるのを当日来ていただいた先生方を選んでいただきました。このイベントはこれらの方々無しでは成り立ちませんでした。本当にありがとうございました。

来年もできれば同じような企画ができればいいと思っています。その時はいろいろな反省点を改善し、前年以上のいいものになりたいです。そして文化ウィークを通して、国際文化交流学科をより多くの人に知っていただけるといいと思います。